

シンポジウム

「先進的医学研究のための遺伝子改変動物研究の推進」のお知らせ

日本学術会議では、学術研究を推進するに当たり多額の経費が必要とされ、また多分野の協調や国際的協力の枠組み等が求められる学術の大型研究計画について、我が国における企画・推進方策の在り方や、それらの方策を実現するためのシステムの構築に向けた検討を行うことを目的として、「学術の大型研究計画に関する調査」を平成21年度に行い、昨年9月にその結果を基にした学術研究の大型プロジェクトに関する基本構想「ロードマップ」が発表されました。さらに引き続き平成22年度に於いても同様の調査がなされております。これに対し、東京大学、熊本大学、大阪大学、九州大学、筑波大学、京都大学、理化学研究所の7つの組織が共同で、「先進的医学研究のための遺伝子改変動物研究コンソーシアムの設立」計画を提案致しました。本計画では、研究者コミュニティの要望を取り入れながら、疾患に関連した2000遺伝子を選別し、遺伝子破壊（ノックアウト）マウス・ラットを作製することにより機能を解明し、新たな治療法開発への手がかりを得ることを目的としております。そこで、本研究計画の具体化を図るとともに、文部科学省、学術会議、関係諸学会をはじめとした関係者のご理解、ご協力を得るために、提案7組織の代表が一堂に会し、シンポジウムを行う事を企画致しました。是非本シンポジウムにご参加頂き、活発な討論が行われることを期待しております。

東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センター 岩倉洋一郎

先進的医学研究のための遺伝子改変動物研究コンソーシアムの設立

東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センター 岩倉洋一郎

現在、ヒトを始め多くの動物の遺伝子塩基配列情報が明らかにされ、今後は遺伝子の機能解明が生物学に残された大きな課題の一つとなっている。ことに多くの疾病の発症には遺伝子の機能異常が関与していることから、新たな予防治療薬の開発のためには、疾病の発症、進展における個々の遺伝子の役割を解明することがきわめて重要である。疾病には複雑な生物反応、生命現象が関与することが多く、発症における個々の遺伝子の役割を知るためには、遺伝子改変個体を用いた研究が不可欠である。このため欧米では、マウスを用いて全遺伝子の機能を網羅的に解明しようとするプロジェクトが既にスタートしている。このような動きに対し、東京大学、熊本大学、大阪大学、九州大学、筑波大学、京都大学、理化学研究所の7つの組織が共同で、「先進的医学研究のための遺伝子改変動物研究コンソーシアムの設立」計画を提案した。本提案では、7組織が協力しながら、疾患関連遺伝子に焦点を絞り体系的に遺伝子改変動物を作製・解析すると同時に、作製された遺伝子改変マウスを研究者コミュニティによって共有し、新規治療法・治療薬の開発に結びつける事を目指している。本講演では、本提案の概略を説明する。



シンポジウム

先進的医学研究のための 遺伝子改変動物研究の推進

日時：2011年9月13日(火)13:00-17:20

場所：東京大学医科学研究所附属病院A棟8F トミーホール

清野 宏 東京大学医科学研究所所長 挨拶

文部科学省 挨拶

岩倉 洋一郎 東京大学医科学研究所 システム疾患モデル研究センター
「先進的医学研究のための遺伝子改変動物研究コンソーシアムの設立」

吉田 進昭 東京大学医科学研究所 システム疾患モデル研究センター
「東京大学医科学研究所における遺伝子改変マウス作製の現状と展望」

山村 研一 熊本大学 生命資源研究・支援センター
「世界ハブ拠点としてのCARD」

岡部 勝 大阪大学生体応答遺伝子解析センター、微生物病研究所附属感染動物実験施設
「遺伝子改変動物を用いた不妊関連遺伝子の解明と、
遺伝子改変動物作製支援業務の現状と今後の方向性について」

續 輝久 九州大学大学院医学研究院附属動物実験施設
「前臨床試験対応疾患モデル動物の開発拠点の形成を目指して」

高橋 智 筑波大学基礎医学系、生命科学動物資源センター
「筑波大学生命科学動物資源センターの概要と活動」

芹川 忠夫 京都大学医学研究科附属動物実験施設
「疾患モデルラットの開発と利用」

小幡 裕一 理化学研究所筑波研究所 バイオリソースセンター(BRC)
「理研バイオリソースセンターにおけるマウスリソース基盤整備・表現型解析事業：
ゲノム研究の成果に基づいた生命科学の発展のために」

浅島 誠 日本学術会議、東京大学大学院総合文化研究科、産業技術総合研究所
「学術の大型研究計画検討の現状と今後」

村上 善則 東京大学医科学研究所副所長 挨拶